productronica

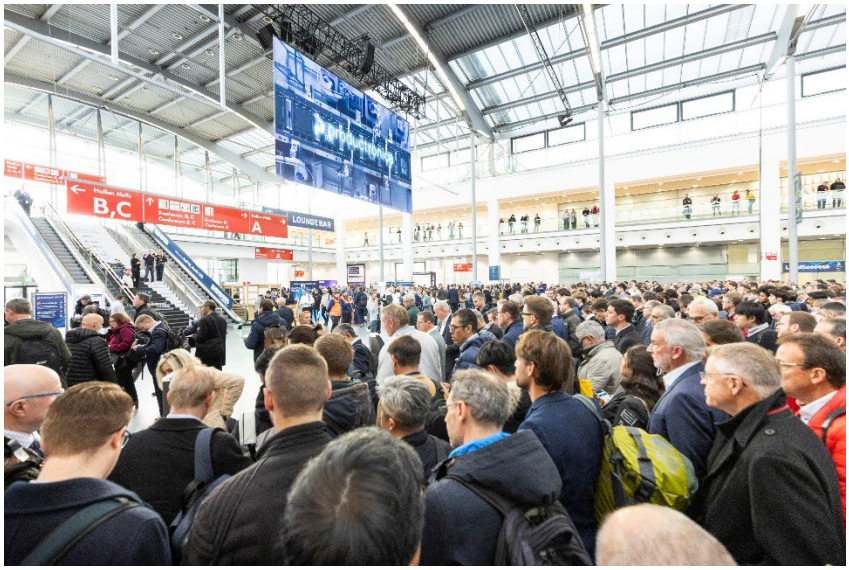
Messe München

ファイナルレポート

国際電子部品製造機器専門見本市
2025 年 11 月 18 日～21 日
メッセ・ミュンヘン

2025 年 11 月 21 日

productronica 2025、力強いシグナルを発して業界の成長を牽引



Summary

- 来場者数 47,000 人超
- 出展者のグローバル度が過去最高を記録
- 出展者と来場者の満足度が共に最高レベル

Facts＆Data

会　　期	2025 年 11 月 18 日（火）～21 日（金） 午前 9 時～午後 6 時（最終日のみ午後 4 時まで）
会　　場	メッセ・ミュンヘン
主　　催	メッセ・ミュンヘン（Messe München GmbH）
規　　模	全 10 ホール 100,500 ㎡（SEMICON Europa 含む）（2023 年： 90,000 ㎡）
出 展 企 業	52 カ国から 1,600 社（2023 年：45 カ国から 1,400 社）
来 場 者 総 数	98 カ国から 47,000 人（2023 年：94 カ国から 42,000 人）
主 な 出 展 品	半導体・ディスプレイ・太陽電池製造、材料加工、生産管理・物流技術、コイル製品、ケーブル加工技術、プリント基板・回路基材製造技術、部品実装技術、はんだ付け技術、製品最終加工、検査・測定技術、品質保証、各種オペレーティング機器、製造サブシステム、原材料、サービス、受託製造サービス（EMS）、マイクロ・ナノ製造技術
専 用 U R L	www.productronica.com（英語 / ドイツ語）

11 月 18 日から 21 日まで、productronica には、52 カ国から 1,600 社を超える出展者が集結し、エレクトロニクス開発・製造における最新イノベーションを紹介した。前回開催と比較して、出展者数は約 20%増、来場者数は 10%以上の増加であった。主要テーマには、先進パッケージング技術、パワーエレクトロニクス、そして信頼性の高いマイクロエレクトロニクスが挙げられる。

電子部品の世界的需要の急増により、信頼性の高いマイクロエレクトロニクスが業界の主要テーマとして一層の注目を集めた。
productronica 2025 はこの潮流を捉え、新技術、テスティング・ソリューション、そして製造アプローチが、バリューチェーン全体における透明性とセキュリティ向上にどのように貢献しているかを鮮明にした。このように、本見本市は、正に業界の将来性に対する明確なメッセージを発信している。

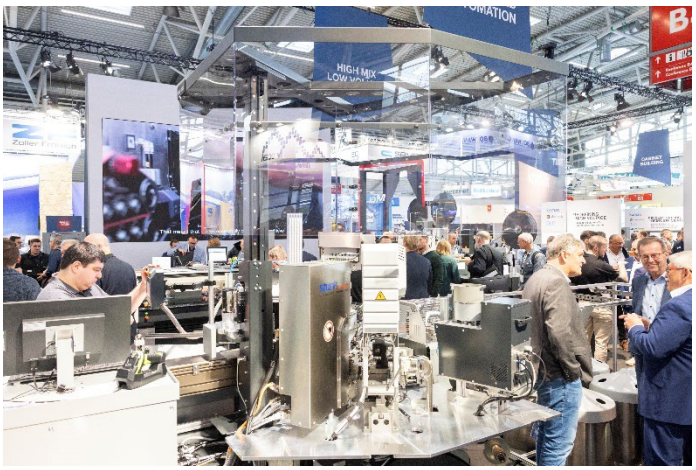
メッセ・ミュンヘン CEO のラインハルト・ファイファーは、「productronica 2025 は、世界のエレクトロニクス製造業界における本見本市の重要性を見事に浮き彫りにした。出展者の国際的な広がりがかつてない規模となり、SEMICON Europa との強固なパートナーシップが、イノベーションのための活気ある環境を生み出している。出展者と来場者からの的確で好意的なフィードバックは、productronica が業界で最も重要な交流の場であることを裏付けている」と、このイベントの意義を強調して述べている。

出展者の国際的な広がりが過去最高水準に
productronica 2025 は、これまでになく国際色豊かな開催となった。出展企業のうち約 58%が国外企業であり（2023 年は 54%）、この 10 年間の推移をみれば、出展者の国際的な広がりは 10 ポイント以上増加している（2015 年は 46%）。productronica 2025 への主要出展国は、ドイツをはじめ、中国、イタリア、オランダ、英国、フランス、日本、スイス、オーストリア、韓国が名を連ねた。
また、productronica 2025 は、98 カ国から 4 万 7 千人を超える来場者を迎えた。ドイツに次いで来場者数が多かった国は、イタリア、オーストリア、フランス、英国、スイス、中国、ポーランド、スペイン、オランダ、そしてチェコ共和国である。

productronica 諮問委員会議長のライナー・クルツ氏は、今回の記念開催に深い感銘を受けたと語り、「この 50 年間、productronica は世界のエレクトロニクスメーカーが一堂に会する場であり続けてきた。今年の見本市で特筆すべきは、各国からの来場者の増加と革新技術の飛躍的増加であった。ミュンヘンは今回も見事にその役割を果たした」と述べている。

ドイツ機械工業連盟（VDMA）傘下のエレクトロニクス・ソーラー・バッテリー生産部門（ESB）CEO の Thilo Brückner 氏も、「productronica のこの記念すべき開催は、VDMA ESB と Productronica にとっても大成功であった。なかでも高い評価を得た特別展示エリアは、大きな注目を集めた。出展各社からは多くの有望な商談が報告されており、厳しい時期にもかかわらず、会場全体に明るい雰囲気が漂っていた」と、同様の見解を示している。
VDMA Productronic は、productronica のコンセプチュアルパートナーとして、重点テーマの選定や、電動モビリティ、自動運転分野の実践事例を紹介する特別展示の実現に尽力した。

出展者と来場者の満足度が最高レベルに
総合評価において、出展者と来場者の双方が、今回も productronica に高い満足度を示した。市場調査機関 Gelszus による調査では、来場者の 98%が本見本市を「非常に良い」または「良い」と評価。さらに、調査対象となった来場者の 95%が、productronica はイノベーションに関して「期待に応えてくれた」と回答している。
また、productronica は出展企業からも最高の評価を受けた。91%の企業が「非常に良い」または「良い」と回答。そして、90%の企業が来場者の質に関して高く評価している。



productronica のプロジェクト・マネージャーBarbara Müller は、このような高い評価は、この見本市コンセプトの強さを裏付けているとして、「出展者や来場者からの高い評価は、Productronica の国際的な魅力の高さを明確に反映している。この見本市は、各々の関連性の高いイノベーションを浮き彫りにし、ビジネスの成功に導くグローバルなネットワーキング・プラットフォームである」と言い切る。

productronica 50 周年：ミュンヘンで半世紀にわたって世界をリードする国際見本市
productronica は、今年記念開催であった。もともとは electronica の展示エリアの一部として始まり、1975 年にミュンヘンで、独立した見本市として初めて開催された。その初開催では、出展者は 12 カ国の 94 社、来場者は 3,900 人に過ぎなかったが、数年のうちにエレクトロニクス開発・生産におけるリーディングプラットフォームへと成長した。
productronica の 50 周年を記念して、メッセ・ミュンヘンは創設当初から参加してきた企業を表彰した。初期からの出展企業には、AAT Aston 社、Brady 社、Konradin 社、Kurtz Ersa 社、Rohde & Schwarz 社、Komax Group／Schleuniger 社、そして Schmoll Maschinen 社が名を連ねている。

併催イベントとして 3 ホールを使用した SEMICON Europa も、今年 50 周年を迎えた。
これに関連して、SEMI（国際半導体製造装置材料協会）CEO の Ajit Manocha 氏は、両見本市の協力関係を称賛して、「SEMI とメッセ・ミュンヘンとの強固なパートナーシップを高く評価しており、今後とも、ミュンヘンおよび世界において、長期にわたって協力を深めていくことを期待している。productronica、electronica、そして SEMICON Europa は、半導体・エレクトロニクス業界にとって、欧州で最も影響力のある見本市プラットフォームであり、この有望な成長軌道を共に継続していくその機会が得られたことに感謝している」と述べた。

次回の productronica は、2027 年 11 月 16 日から 19 日までミュンヘンで開催予定。
詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ www.productronica.com まで

productronica 2025 主な日系出展社（50 音順）

㈱ADEKA、㈱アイプレッション、アポロ精工㈱、㈱いけうち、いばらき中小企業グローバル推進機構、AGC㈱、SWCC㈱、㈱エイゾス、オムロン㈱、㈱カイジョー、㈱笠倉メテック、㈲川住製作所、㈱キーエンス、㈱弘輝、㈱サキコーポレーション、㈱幸手スプリング、札幌市、㈱ジャパンユニックス、JUKI オートメーションシステムズ㈱、新明和工業㈱、西華産業㈱、㈱精研、千住金属工業㈱、太陽ホールディングス㈱、㈱タムラ製作所、東洋紡 STC㈱、㈱Doog、トヨタツ㈱、ナガセケムテックス㈱、ナミックス㈱、日本アルミット㈱、日本オートマチックマシン㈱、日本シイエムケイ㈱、日本電計㈱、日本トムソン㈱、㈱ネクステッジテクノロジー、白光㈱、パナソニックコネクト㈱、ハリマ化成グループ㈱、日置電機㈱、㈱FUJI、北海道大学、マイクロクラフト㈱、マランツエレクトロニクス㈱、三井金属㈱、㈱ミツトヨ、武蔵エンジニアリング㈱、メック㈱、ヤマト精機㈱、ヤマウチ㈱、ヤマハロボティクスホールディングス㈱、利昌工業㈱　ほか（50 音順）

SEMICON Europa 2025 主な日系出展社（50 音順）

アズビル㈱、㈱アドバンテスト、㈱アルバック、㈱イワキ、SMC㈱、SPP テクノロジーズ㈱、㈱荏原製作所、樫山工業㈱、カネキタ㈱、兼松㈱、カンケンテクノ㈱、キヤノン㈱、㈱クリエイティブテクノロジー、㈱KOKUSAI ELECTRIC、㈱キッツエスシーティー、サムコ㈱、三相電機㈱、㈱サンテック、㈱潤工社、㈱伸興、積水化学工業㈱、住友重機械工業㈱、住友重機械イオンテクノロジー㈱、㈱清和光学製作所、双日マシナリー㈱、ダイキン工業㈱、㈱ダイフク、D&X㈱、TIP composite㈱、テクノホライゾン㈱、㈱ディスコ、東亜ディーケーケー㈱、東京エレクトロン㈱、東京応化工業㈱、㈱東京精密、東北大学マイクロシステム融合研究開発センター、東北マイクロテック㈱、東レエンジニアリング㈱、㈱巴川コーポレーション、㈱ニコン、ニデック㈱、日本ガイシ㈱、日本酸素ホールディングス㈱、日本電気硝子㈱、㈱ハイテック･システムズ、浜松ホトニクス㈱、㈱日立製作所、㈱日立パワーソリューションズ、㈱フジキン、富士フイルムエレクトロニクスマテリアルズ㈱、㈱フェローテック、ボールウェーブ㈱、㈱堀場製作所、丸紅㈱、三菱ケミカル㈱、㈱ミツトヨ、宮城県、村田機械㈱、メルテックス㈱、安川電機㈱、山梨旭ダイヤモンド工業㈱、㈱ヨコオ、理研計器㈱、リンテック㈱、㈲ワイ･システムズ、ワッティー㈱　ほか（50 音順）

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先：メッセ･ミュンヘン　日本代表部
株式会社メッセ･ミュンヘン･ジャパン
〒105-0001　東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階
Tel.: 03-6402-4583　Fax: 03-6402-4584　E-mail: info@messe-muenchen.jp
URL: www.messe-muenchen.jp（日本語）www.messe-muenchen.de （英語 / ドイツ語）